



2022.7.1

園長だより NO78

関東は梅雨明け宣言、ここ数日の暑さは真夏を感じさせます。身体が暑さに慣れていないだけに身体のしんどさが増します。連日の暑さに体調管理には十分、気を付けなくてはなりません。

人と話せること

新型コロナウイルスの感染者も横ばい、千葉県は減少傾向にあるものの油断はできません。街中を歩いてみると飲食業も活気が徐々に戻ってきた印象を受けます。人数や時間の制限も緩和され、感覚は平時の状態とも思えるぐらいです。

こんな社会状況になり、疎遠になっている仲間との交流も感染対策を講じながら再開することができるようになりました。

保育や医療に従事している方はこの2年間はかなり気をつかい、自分の余暇などを制限し自宅と家庭との往復に徹してきたことでしょう。

保育業界については今だからオンラインを活用する風土が出てきましたが仕事柄、対人業務であり時間的拘束も強く、他園の保育者との情報共有の場が制限されていました。メール、ラインでのやり取りでは真髓までいくことができず、保育の課題、悩みを緩和できずに仕事へのフラストレーションを抱える保育士は多くいたと思われます。関わる人

が制限されていたこの2年間、視野は狭くなり、仕事へのモチベーションの低下も否めません。普段なら仲間と乗り越えてきたことも、一人で考え、背負うなんていうケースもあったはずです。

ただ、ここまでのピンチを乗り越えてきたわけですから、これから、徐々に状況が好転していくことに対応し仕事へのモチベーションを上げ、生活を共にする子ども達に反映できるようにしていきたいものです。

それぞれの保育観が渦巻く

悩みを抱えている保育士と話をする機会がありました。コロナ禍においていろいろな行事が制限され、規模を縮小して対応していたと言う、概ねどの保育園も感染状況を鑑みながら知恵をしぼり保育内容を考え、実践してきているわけです。このような状況だから日々の生活を見直し、子ども達にとって充実した生活を組み立てていこうと考える園が大半だと思っていました。ただ、中にはより閉鎖的になり従前の保育をがちがちに押し通す園もあるのです。悩みを抱えている保育士は先輩保育士から「なんでも話していいよ、気になる事があれば伝えてね」と言われたと言う。

子どもに寄り添い、できるだけ子ども達の興味、関心に寄り添った内容を保育で実践したいと思っていた。先輩から「なんでも話していい」と言われ、今までの保育の中で「これ

は、大人の都合だよな」と感じることを先輩保育士に伝えたという。些細なことですが例えば、生活の節々でトイレに行くように子ども達に指示をする。その保育士は生理的要求であり、指示をして集団でトイレに行かせることは好ましくないと、自分から排せつの意思を伝えられ、自らの間隔、ペースで行くことが好ましいと、ひとりひとりの状況に応じた対応をすることが大切ではないかと言っていた。私も異論はない、究極は食べたいときに食べ、眠りたいときに眠り、排せつも個々の状態に応じて対応することが良いと考える。※ 集団生活の中で子どもなりの生活秩序もあり理想と現実のギャップはあるが できるだけ子どもの見せる姿に寄り添いたいと思っています。

なぜクラス全員でトイレに行くのですかと伺ったが適正な返答はなく、昔からしていることだからと返答があった。他にもいくつか理不尽な保育について質問してみたが、回答はどれも今までやってきたことだからというものであった。

それからは地獄のような日々であり、何を聞いても応えず、自分だけ干されていく日々であったという。

コロナ禍においてプラス思考で考えれば子ども達としっかり向き合える機会をいただいたのにこれでは何も良くなっていかなかった。変わっていったのは自分自身の精神が病んでいくことだった。

結局、身体を壊し、退職することになってしまった。誰にも相談できず月日が経過した。

現在、復職にむけ活動を再開している。 コロナ禍で人とのかかわりが疎遠になっていたことが身体を壊すことに拍車をかけていた。

保育観は十園あれば十通りあって良い、十人いれば考えは十通りあっていいと思う。

ただ、それぞれの考えは異なる。相手を尊重したうえでしっかりと応答的に対応できることがより良い方向を導き出せることに繋がる。

子ども達にとって良い方法(内容)を選びだしてあげる事が望ましいと考える。

園風土が職員を育てる

保育観と言ったがそれぞれの園の風土もある。なんでも言い合える関係性の園、上司に従ういわゆる上意下達の園、園の風土により入職後の職員の成長の差は歴然とでる。

はたして自園はどうであるのか？

「井の中の蛙 大海をみず」ということわざがある。狭い生活拠点の中からはいろいろな刺激を受けることない、刺激がないところには新しい発想もない。変化もない、自身の向上もない、かなり厳しいようだが自分自身も変わらなくてはと思っています。

新型コロナウイルス感染症の対応が変化中、人と会い、話すことが徐々に増えてくることは大いに歓迎しています

私もできるだけ人と会い「廣部さん それまずいよね。ダメだね こういう考えもあるよ」と大いに言われたい。※自分の信念はぶれずが基本ですが・・・私の存在が職員の在り方や人間関係に大きく起因している。私次第なのかもしれない (おおぞら保育園 園長 廣部 信隆)

